

基調講演

遺伝資源利用による水稲育種

中国雲南省農業科学院長
吳 自 強

尊敬する梶原敏宏所長先生：

尊敬する畑中孝晴局長先生：

尊敬する林 健一所長先生：

出席者の皆様

このたびは梶原敏宏先生のご招待をいただき中国代表団長として熱帯農業研究センター主催による国際シンポジウム「遺伝資源利用による水稲育種」に出席いたしますことを大変光栄に存じております。また、中国代表団を代表して、梶原敏宏先生、日本農林水産省熱帯農業研究センター及びシンポジウムの準備にたずさわった関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

中日共同による水稲育種研究はわが国が対外開放政策を実施して以来、両国の農業担当大臣間の協議によって実施が決った最初の長期共同研究プロジェクトであり、また、この研究課題については中日両国の農業科学者が共に興味をもっているものであります。本共同研究は中国の雲南省農業科学院と日本の農林水産省熱帯農業研究センターが担当し、友好、互惠平等の原則に基づき、中日双方の水陸稲遺伝資源及び遺伝研究材料を相互に提供、利用して、特性検定方法と育種方法の開発及び遺伝育種に関する研究を行い、これらをもとに耐冷、耐病、多収水稲新品種を育成することです。

1982年中日双方により共同研究を実施することが合意されてから今日まで5年間に中国農牧漁業部、国家科学技術委員会、雲南省政府、日本の農林水産省、農林水産技術会議事務局の支持と指導を得、また私ども雲南省農業科学院と熱帯農業研究センター双方の研究者の共同努力により2期にわたる共同研究は円満に完成されました。この期間中に双方より提供された水陸稲遺伝資源の耐冷性、耐病性及び多収性について検定を行い、その特性を開発利用しております。交配によって得た系統は世代促進法を用いて選抜の効率を高め、今日まで合系1号～11号という有望系統が育成され、現在新品種のための最終テストが行われております。このほか、稲遺伝資源と育種材料の耐冷性、耐病性に関する研究も行われています。近い将来、中日両国民の友好の結晶である共同育成水稲新品種が水稲生産に普及されるようになるものと確信しております。

科学は人類が共同で創造したもので、全人類の繁栄にむすび付くものであります。特に農業科学の場合、各国国民の生活と直接むすび付くものです。限られた土地でより多い食糧及び他の農産物を生産してますます増えつつある人類の需要に対応するのは世界各国が直面している共通の

緊急問題で、その解決はわれわれ農業関係者の歴史的使命であります。中国と日本は一衣帯水の友好隣国で、両国とも米を主食としている国です。水稻は作付面積と収量のどちらから見ても両国の農業の中で重要な地位を占め、また、両国とも長い水稻栽培の歴史と経験をもっています。従って相互の協力を通じて助けあい、学びあえば双方の育種理論と方法の開発に大きく役に立ち共に発展することができます。世界中どんな国でもその科学技術の水準と社会制度に関係なしに国際間の科学技術交流と協力を強化しなければならないと思います。中日両国間の水稻共同研究も上述した観点と期待にもとづいて実施されているものであります。

本9月4日から9日まで中国の昆明において中日共同による水稻育種立毛検討会が開かれ、両国の責任者及び研究、行政関係者たちは現地において2期にわたる共同研究の成績及び問題点について全般的な検討と評価を行いました。今回は熱帯農業研究センター主催で国際シンポジウムが開催され、共同研究成果の発表と交流を通じてこれまでの成果を科学的にまとめる一方、これからの新目標を設定することになります。本シンポジウムの開催は共同研究の一層の発展とより大きい成果の獲得のために大きく役に立つと確信しております。

シンポジウムの成功を心より祈ります。

ありがとうございました。